

専務理事方針

段 厚美

新型コロナウイルス感染拡大により、これまでの当たり前の日常が失われました。そのような中で、対面や移動を制限される生活様式は、私たちの活動に多大なる影響を与え、人間関係の構築、運動を困難なものとなりました。しかし、この変化は、悪いことだけではなく、更なる可能性を切り拓くためのきっかけになったと考えます。だからこそ、「できない」と諦め「前に進む」のを恐れるのではなく、明るい未来を想像し、中津川市や、このまちに住み暮らす人々、そして共に活動するメンバーのために行動したいと私は考えます。

戦後10年の混乱を極めていた日本経済を若い力で立て直そうと、青年が声を上げ「明るい豊かな社会」の実現を目指し、時代に先駆けた様々な運動を行ってきたからこそ、各団体、市民の方からの信頼や信用を得て今の中津川青年会議所があります。今後も中津川青年会議所の価値を更に高め、まちから必要とされる組織でなければなりません。だからこそ私たちは、普段から中津川の未来を想像し、「手段の目的化」にならないようイメージを共有したうえで、本質的な議論を交わす必要があります。そのために、未来を想像できる情報の報知の機会を増やし、メンバー間の交流はもちろんのこと、各諸団体との交流の機会を提供してまいります。そうすることで、この団体に共感していただける方が増え、継続的にこのまちから必要とされる組織になると考えます。

私たちにできないことは何もありません。今だからこそ、メンバーの想いを一つにし、私たちが行う活動や運動に自信をもって笑顔溢れる中津川に向け共に歩んでいきましょう。私は専務理事として、先輩諸兄が築き上げた活気のある青年会議所活動より、もっとメンバーが笑顔で活気溢れる青年会議所活動ができるよう時代に即した組織を皆で創りあげられるように努めてまいります。

<事務局>

会務業務は、効率的且つ円滑な組織運営と本質を追求する議論ができる環境づくりを心掛け、ルールを守ることを徹底していただきたい。

渉外業務は、対内外の活動に対し、迅速な情報発信と活動や運動の発信を行うと共に、出向者を支え、心のこもった設営を心掛け、LOMのため、メンバーのために何をすべきなのかを常に考え行動していただきたい。